

# 片瀬のぞみだより

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2024年11月号

家庭通信 2024 No.16

## 「慣れ親しんだものだからこそ、その凄さがわかる」

先日の運動会では、たくさんの声援の中、子どもたちが普段以上の力を発揮し、一生懸命頑張る姿をお届けできたかと思います。いかがだったでしょうか？在園児だけでなく赤ちゃんからお祖父ちゃん・お祖母ちゃんまで「みんなでのしく」の空気感が片瀬のぞみ幼稚園らしく素敵でした。卒業児がたくさん参加してくれたのも嬉しさの一つとなりました。

さて、運動会を終えた子どもたちは、運動会を成長の糧としてまたひとつたくましくなったような感じがします。特にすずめ組の縄跳びとはと組のコマ回しに挑戦する姿はとてまかっこよく見えます。そのような姿も毎年よく見られる姿なのですが、この時期必ず見られるもう一つの姿があります。それが「砂遊び」です。秋を感じる穏やかな気候に誘われて、乾燥したサラサラの砂が魅力的に感じ砂遊びが始まります。春や夏のダイナミックなドロドロべちゃべちゃなものではなく、じっくりと集中したものとなります。ここ片瀬のぞみ幼稚園では、サラサラの砂に心を弾ませるのは、子どもたちだけではありません。私も含めこの砂を目の前にしてソワソワしない先生たちはいません。さっそくシャカシャカ（お料理用のふるい）を持って、子どもたちとサラ砂作りに励みます。そして、始まるのです、つるピカだんご作りが！！大人も子どもも夢中になってサラ砂を溜めたフライパンと向き合い、せっせと手を動かします。まるで、サラ砂とお話しをしているかのように。このタイミングこそ私の出番と思い、自称つるピカだんごづくり名人（その名の通り横山流）が腕を振ります。20 数年磨き上げたその技でつるとしてピカッと光沢のある大人も子どももびっくりするようなおだんごをつくり、幼稚園のみんなにお披露目します。すると、「すごーい！！、さわらせてー。」「どうやって？つくってみたーい。」となります。晴れて、つるピカ道場の門下生となった子どもたちとさきこ先生がつるピカ目指してだんごづくりに励みます。やはり、門下生の中心ははと組とすずめ組になりますがそれを見ているたまごさんやひよこさんは予備軍として見様見真似に土や砂と触れ合うのです。このようなルーティーンが形成されてみんなが砂や土と仲良しになり、より詳しくなっていくのです。その一つの例として、私が作ったつるピカを壊す時（わたしほどのレベルになると傷が少しでもつくとも失敗とみなし、その場で壊します。陶芸家みたい笑）すると、子どもたちは、割れた破片を拾いに群がりその破片をじい〜っと見つめて「へえ、こうなってんだ。」と言うのです。今年に限らず毎年、この姿が見られます。そして、このように興味をもつのが年長組のはとのお兄さん、お姉さんなのです。ずっと慣れ親しんできた土と砂だからこそその素晴らしさ、凄さをより知ることができるのです。この「慣れ親しんだものだからこそ、その凄さがわかる」これを経験していることはとても大きいことだと思います。幼児期において、このような経験を積み重ねておけば、様々な事象に興味を示し、その面白さや素晴らしさ、もしかしたら、苦しみや悲しみ・・・物事の本質を知ろうとする探求心へと繋がっていくのではないのでしょうか。恵みの秋です、いろんなことに心を向けて、慣れ親しんでもらいたいと思います。

ツルピカだんご師範代(園長) 横山流